

## 2021年度 聖隷こども園ひかりの子 自己評価 結果

### 【聖隷こども園ひかりの子 教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指します。

- \*愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- \*一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- \*自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- \*在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てできるように支援する。

聖隷こども園ひかりの子では、「保育者のための自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行いました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の質の向上のため、次年度の取り組みにつなげていきたいと思えます。

	自己評価結果・課題
第1章 総則 1. 教育及び保育の基本と目標 2. 特に配慮すべき事項 (1) 教育及び保育の配慮 (2) 健康支援 (3) 食育 (4) 特別支援教育・障害児保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度同様、全体的に、「理解している」と回答できる一方で「説明できるか」ということについては自信のない職員が多い。自分の言葉で説明できるための学びを深めていくことが必要。</li> <li>・毎年の自己評価により、職員間で視点が共有できるため、互いに問題意識をもち、子どもに向き合っていく。</li> <li>・食育に対しては、給食担当者と保育者との連携をとることができている。今後は、保育者が主体となった各年齢に応じた食育を職員自身が意識して実施するための可視化や整理をしていきたい。</li> </ul>
第2章 子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園目標と通ずる項目が多いことを職員間で再確認した。個々の発達を丁寧に捉え、主体的に生活できる環境構成や遊びの展開を考えていく。</li> </ul>
第3章 「ねらい」及び「内容」 1. 保育内容「健康」 2. 保育内容「人間関係」 3. 保育内容「環境」 4. 保育内容「言葉」 5. 保育内容「表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症流行に制限が未だ続くが、現状の中でできることを考えていきたい。(特に人間関係)</li> <li>・「表現」については、全体的に評価が低い。特に音楽について、苦手意識のある職員が目立った。職員個々が自己発揮できる分野の学びを深めており、その一つに「音楽グループ」がある。得意な者、好きな者が中心となり、園全体に発信することを継続していく。</li> </ul>

<p>第4章 低月齢児の保育実施上の配慮事項</p> <p>1. 乳児期の保育に関する配慮事項</p> <p>2. 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項</p>	<p>・マニュアルや看護師の指導を基に、行動としてできている部分は多いが、環境設定や関わり方としてはもう少し見直しができる部分もあるかと振り返った。</p>
<p>第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項</p>	<p>・2021年度は「全体的な計画」に対する学びを、副主任を中心として深められた。来年度はこれを園全体へと広めていくと同時に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」も意識して保育の計画、実施、振り返り等がしやすい仕組みを作っていく。</p>
<p>第6章 研修と自己評価</p>	<p>・コロナ禍でも、2021年度は研修の機会が多く与えられた。また、オンライン研修は参加しやすさもある。一方で対面型研修の良さも再確認された。</p> <p>・園内研修の実施については、来年度に向けて位置づけを検討している。</p>
<p>第7章 子育て支援</p>	<p>・全体的に経験の浅い職員が多く、子育て支援に対しては、望ましい支援が出来ているか？という不安を抱いている。今後、園内研修を計画しているが、園全体としても学びを深めていきたいことの一つである。</p>

<総評>

- ・保育の質の向上と業務改善が求められる中で、その両方が保障される教育・保育を園全体で考えてきた。保育の質の保障という点に於いて、この自己評価チェックリストで示される視点を確認しながら、今後も検討していく。
- ・会議などでは、確認すべき内容が最優先され、今回、自己評価により明確化されたような個人の思いを共有する機会が減っていると感じる。そのような機会を今後意識的に作っていくことで、個々の思いを深め合える経験を積みたい。
- ・感染症対策による、地域交流や園内での異年齢交流の希薄化は否めない。そこは理解しているが、そのための具体策までは園内でも考えられていない現状がある。社会福祉施設としての役割を果たすため、来年度はより具体的にその方法を考えていく。